

2月22日 テーマ:「^{しんこう}信仰^{かみ}がなくては^{よろこ}神に喜ばれない」

聖書箇所: ^{びと}ヘブル人^{てがみ}への手紙^{しょう}11章^{せつ}6節

◆今日のみことば

^{しんこう}信仰^{かみ}がなくては、^{よろこ}神に喜ばれることはできません。^{かみ}神に近づく者は、^{ちか}神がおられること^{かみ}と、^{かみ}神を^{もと}求める者には^{もの}報^{むく}いてくださる方^{かた}であることを、^{しん}信じなければならぬのです。
ヘブル人への手紙 11章 6節

◆メッセージ

私たちは教会で「信仰」という言葉をよく聞きますが、信仰とはなんでしょう。(子どもたちに言ってもらいましょう。)このヘブル人への手紙11章は、信仰がどのようなものを色々な角度から教えている箇所です。

今日の箇所は5節から続けて読むときに、私たちに信仰のひとつのこと側面を教えてください。エノクさんは旧約聖書に出てくる人。驚くことに、エノクさんは生きたまま神さまのもとに行った人です。それは5節に書いてあるように、神さまがエノクさんになされたことです。



では、なぜそうしたのでしょ。それはエノクさんが、神さまに喜ばれる人だったからだ、と5節は言っています。では、なぜエノクさんは神さまに喜ばれていたのでしょうか。それが今日の6節の内容です。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません」。つまり、エノクさんはこの信仰を持っていたので、神さまは喜んだのです。では、エノクさんの信仰とはどんなものだったのでしょうか。6節の後半はそれを説明しています。神に近づくもの、つまりエノクさんや私たちのように神さまを愛して一緒に生きていこうとする者は、神さまがおられることと、神さまに信頼して求める時、神さまが答えてくださることを信じる必要があると聖書は言っています。この信仰を持っていたエノクさんは、神さまに喜ばれ、神さまのもとに普通とは違うやり方であげられたのです。

11章には、実際に信仰を持って生きた人の話しがたくさん記されています。信仰とは単なる頭の中の出来事ではありません。神さまがおられることを信じること。そして神さまが祈り求める者に答えてくださると信じることは、私たちの生活と人生を実際に変えて行きます。今日も私たちの生活がこの信仰に導かれるものであるように祈りましょう。



◆お祈り

「神さま 今日私たちが あなたがおられること そしてあなたが答えてくださることを信じて歩めますように。」

(東北宣教プロジェクト 齋藤満)